

令和3年度 岡山県立林野高等学校 具体的な学校経営目標・計画

2022.2.28

重点目標	関係分掌	課題	方 策（具体的取組）	評価基準(評価可能数値)	中間評価	中期進捗状況	最終評価	年度末達成状況	新年度への課題
1 資質・能力の育成を基盤とした授業改善を進めるとともに、一人1台端末を活用した学びに向かう力の育成法の開発を進める。	教務課	○教科間の指導連携やICT等を利用した授業法の開発を進めることで、学びに向かう力の育成方法を模索する。 ○観点別評価の正当な運用 ○新教育課程の編成	○ICT活用教員研修会の企画・実施。 ○授業改善研修会(年2回)、授業公開週間(年2回)の実施。教科を越えた授業の相互参観を促す。 ○評価のしくみの改革を、教科の指導の工夫につなげる。 ○昨年度作成した新教育課程を精査し完成させる。 ○教育課程委員会と教科会議の連携(観点別評価の運用、教育課程編成への理解と協力)。	○授業公開週間中、全員の相互授業参観が3回以上になる。その内、1回以上、他教科の授業を参観する。 ○生徒と教員アンケートで、教科・MDPの資質能力の育成に関する項目や評価に関する項目の肯定率が80%以上になる。 ○新教育課程が完成し、令和4年度入学生に対する準備が整う。	B	○6月の授業公開週間の相互授業参観の総数が38回であった。11月の授業公開週間では、期間中に一人一台端末活用事業公開授業成果発表会があり、授業参観を通して教員同士で研鑽を積み重ねることができた。 ○昨年度から始めた評価方法について、改めて共通理解を図るため、年度当初の教科主任会議で指導教諭から説明を行う機会を持った。 ○新教育課程が6月に完成した。令和4年度入学生向けのガイドブックと年間指導計画の作成、3観点による評価の検討を各教科に依頼している。	B	○指導教諭と連携し、授業公開週間や各教科の授業研究会を通して教員同士で研鑽を積み重ねることができた。 ○令和4年度入学生向けのガイドブックの作成、年間指導計画の作成、3観点による評価の検討を各教科で行っている。 ○学校自己評価アンケート『学校はMDPなどの活動により、生徒の「生きる力」や「進路を実現する力」を育てている』肯定率生徒88%、保護者93%、教員93%。	○令和4年度入学生から教育課程が変わり、観点別評価が3観点になる。そのため、各教科の評価や2年次に向けた科目選択が上手く進めるために準備が必要である。
	進路指導課	○新入試で求められる思考力・判断力・表現力を生徒に身につけさせるために、授業改善・指導法改善を進める。 ○一人一台端末を生かした家庭学習時間増加のための仕掛けをする。	○進路セミナー ○進路講演会 ○模擬試験・GTEC ○補習・学習セミナー ○学習実態調査(5月、9月、1月)	○共通テストで各教科の平均点以上得点している生徒が30名以上。 ○国公立大学の総合/学校推薦型(旧AO/推薦)選抜において15名以上の合格者を出す。 ○国公立大学合格者数合計30名以上の合格者を出す。	B	○進路セミナー、進路講演会などはコロナ禍でオンラインとなるものもあったが、概ね予定通り開催できている。 ○学習実態調査では過年度比較をし、職員会議で報告をした。	B	○共通テスト平均点以上の人数は国27、数7、英8、理4、地歴6と厳しい結果であった。国公立大一般入試で勝負できるように、すべての教科で10名以上を目指す必要がある。 ○国公立大 総合型(合格5/15 33.3%)、学校推薦型(合格4/20 20.0%) 計(合格9/35 25.7%)で苦戦した。	○家庭学習時間を増加させるための方策として、手帳に学習時間をメモする習慣を付ける。クロムブックに学習実態調査の結果を入力させ過回比較や目標の設定などをさせたい。
	3年次	○生徒自身が進路の方向を主体的に見通すことができ、実現に向けて具体的な取り組みを行わせる。	○生徒自身が自分の進路実現に向け見通しをもって活動できるよう、担任面談を定期的に行い、キャリアノートを活用し、入試・採用試験までの計画書を作成させる。	○国公立大学合格者数を合計40名以上出す。	B	○担任面談の記録やキャリアノートの活用ができた。各クラス・個人によってスケジュール管理はまちまちだが、計画立てて指導できた。	B	○進路実現に向けキャリアノートや記録の蓄積を行うことができた。一方で見通しと計画性という面で後手に回る生徒も多く見られた。	○chromebookだけではなく、日常のメモや数ヶ月スパンの予定は手帳を活用し管理していきたい。
	2年次	○ICT機器の活用および学習者中心の授業展開。 ○学習・進路実現に向けての動機づけ。 ○自主・自立・自律および和の精神の涵養。	○Google Workspaceを活用した学び合いや考えをまとめたり表現したりする活動。 ○Classiでの学習時間記録や課題配信、授業や年次集会などさまざまな場面での啓発。	○生徒一人ひとりが活動にICT機器を活用でき、学習時間の記録を継続し、自主的に課題に取り組める。 ○生徒全員が自らの現状と成すべきことを理解し、進路実現に向けて動き始めている。 ○自分の立場を理解して心配りができ、人間関係について問題がない。	B	○Chromebookの使用が2年目となり、生徒は各自が必要に応じて活用の幅を広げられるようになっていく。 ○校内外での活動が制限される中、相互に協力・工夫できる集団となっている。 ○進路に対する意識は十分ではなく、自主的な学習を進められず、学力向上に繋がっていない。 ○選択科目の決定や教科数が増える模擬試験に向けての意識向上が課題である。	B	○生徒はChromebookを活用しての情報共有や協働活動を通して、各自が記録や考えをまとめたり、発表したりすることができている。Chromebookを自己管理に利用する。 ○進路決定に向けての制度や方法に関する知識、現状認識や方策に対する意識が十分とは言えない生徒が多い。 ○大半の生徒は課題に取り組むことができているが、その目的を理解した上で向き合っているかどうかは疑問である。 ○生徒は自身が属する集団において協力的に関わることができ、大きな問題は起きていない。	○各自が進路決定に必要な方法や手順を理解し、自主的に滞りなく進める。 ○勉強の意味を理解し、自らの進路に向けて必要・適切な学習法や学習体力を身につける。Chromebookを学習事項の定着にも活用する。 ○集団の一員であることを自覚し、物理的・精神的に周囲に配慮する。
1年次	○ICT機器の使用については経験の少ない生徒が多い ○ICT機器の効果的な活用および学びに向かう力を育成するためのICT機器の活用を開発する。	○Google Workspaceを活用した、自己の考えをまとめたり表現したりする活動。 ○ペア・グループによる学び合いや協働学習	○授業評価アンケートの「この授業では、学んだ知識や技能を活用して自分で考え表現する機会があまりすか」の項目において肯定的回答が80%以上。	B	○各教科でペアまたはグループワークを積極的に実践している。活動報告書をGoogle Workspaceを活用し実施しており、生徒自身の学びをまとめ、今後に活かすよう取り組んでいる。今後は自己の考えを表現する機会を設けていくことが課題である。 ○授業評価アンケートの5教科9科目において肯定的な回答は平均で85.5%であった。	B	○生徒一人ひとりがGoogle Workspaceを活用し、自己の学びをまとめたり、発表を行うことで、学びを深めることができた。活動報告書も継続的に作成し、今年度の学びを振り返ることができた。	○生徒自身が自主的にGoogle Workspaceを活用できるようにする。 ○学習だけでなく、進路決定に向けて、情報の収集や自己管理に活用し、学習意欲と進路意識の向上を図る。	
2 生徒自身が主体的、計画的に取り組む活動を展開する。	生徒課	○教員からの呼びかけを受けて、積極的に行動することができる生徒は多い。しかし、自ら行事を盛り上げるためや、次年度への反省点を思慮するなど主体的、計画的な活動にはいたっていない。 ○生徒会執行部が7名で活動しており、その多くの生徒が部活動の中心的人物となっている。生徒会が主体的、計画的に生徒会行事を運営するためには、人数が少ない。	○生徒会執行部の7名に加えて、生徒会行事を手助けしてくれる生徒を「生徒会サポーター」として募集する。 ○生徒会執行部がリーダーとなり、生徒会サポーターとともに生徒会行事を生徒の目線で現状を把握し、計画運営を行えるようPDCAサイクルをまわしていく。そのため、生徒会執行部と生徒会サポーターが、生徒会行事後にKPT法で振り返る時間を設ける。	○生徒会サポーターを、1・2年合わせて20名募集することができる。	B	○生徒会新執行部選挙の際に生徒会サポーターを募集し、現在(12/1)、6名が参加してくれている。今後、生徒会行事前に追加募集をしていく。 ○生徒会行事のあがり祭終了後に、生徒会執行部に行事後アンケートを取ることはできていないが、生徒会執行部の活動を活性化するために、生徒会執行部定例会を開くように促していく。	C	○生徒会が主体的、計画的に生徒会行事を運営するために、生徒会サポーターの募集や行事ごとの振り返りを具体的方策として挙げた。生徒会サポーターは評価基準の20名に達しなかったが、6名が参加してくれている。また、生徒会執行部を中心に、生徒会行事を盛り上げようと事前に行事に向けてアイデアや意見を出し合うことができていたが、行事ごとの振り返りについてはできていない。そのため、改善すべきところはあつたのか、例年通りでよいのかということを生徒目線で話し合うことができていない。	○生徒会執行部自らが生徒会行事についてPDCAサイクルを回していくことができるように仕掛けたい。そのためには、生徒会執行部や生徒会サポーターが日常的に話し合いができる場として定例会を開くことが次年度への課題である。また、次年度も生徒会サポーターの募集を引き続き行っていく。
	3年次	○自己分析・理解した上で、自立的に進路を選択する力を身につける必要がある。 ○進路実現に向けて自主的に情報を収集し、計画を立てて行動する力をつける	○進路実現に向け、見通しをもって活動できるよう、進路ノート等に計画を立てる。 ○就職・進学に向けての面接・小論文指導では学校全体での指導体制をとる。 ○新入試制度の最新情報を教員・生徒・保護者に提供・共有する。 ○教員自身が生徒に身近な社会人として、生き生きとした姿を見せる。	○生徒の進路決定満足度90%以上(アンケート数値による検証)。 ○進路ノート等を活用し、進路実現に向けて自主・自律的に行動できたかの振り返りを行う。 ○活動報告書に自己の活動を記録・蓄積し、振り返りを行う。	B	○進路ノートを活用し、自分の進路決定までのスケジュール管理を呼びかけている。林野スタイルのスケジュール管理方法を確立したい。 ○活動報告書については、行事ごとに蓄積することができている。	A	○進路決定満足度調査 未実施 ○進路ノートの活用については、各学年で独自のノート・ファイルを作成し3年間の振り返りが出来ている。 ○活動報告書については各学年で様式は異なるが、クロムブックに記入・蓄積し振り返りに活用出来ている。	○スケジュール管理については新1年生より「今来手帳」を採用しスケジュール管理を徹底できるよう指導していきたい。 ○活動報告書は3年間通して入力できる仕様にしてキャリアパスポートとしても活用できるようにしたい。
3 生徒自身が社会との関わりの中で、自らの生き方を考え進路を実現することができる。	進路指導課	○自己の将来を見通して、進路実現に向けた活動を計画・実行する力を身につけさせる。	○生徒自身が自分の進路実現に向け見通しをもって活動できるよう、担任面談を定期的に行い、キャリアノートを活用し、入試・採用試験までの計画書を作成させ、担任に説明する機会を設ける。	○生徒の進路決定満足度90%以上(アンケート数値による検証)。 ○キャリアノート、Classiを活用し、進路実現に向けて自主・自律的に行動できたかの振り返りを行わせる。	B	○キャリアノート、Classiを活用し、進路実現に向けて取り組んでいる。	A	○進路決定満足度調査 未実施 ○キャリアノートやclassiを活用し、自主的に行動できる生徒もいた。	○見通しを立てた取り組みを早期から実施していきたい。

重点目標	関係分掌	課題	方 策（具体的取組）	評価基準（評価可能数値）	中間評価	中期進捗状況	最終評価	年度末達成状況	新年度への課題
4 「開かれた学校」の観点から、小中学校・地域との連携を図る。	教務課	○「開かれた学校」の観点から、小中学校・地域との連携を図る。 ○広報活動（県内＋全国募集）。	○教員だけでなく、生徒を中心として学習支援ボランティアやICT活用指導など小中学校とのつながりを作ることのできる広報活動を行う。 ○みまチャンネル、美作市広報との協力・連携。 ○地域コーディネーターとの連携（みまさか学）。 ○塾と連携した学校説明会を開催する。学校側の説明だけでなく高校生や保護者が本校の魅力を発信する。 ○オープンスクールの内容、広報の内容や時期を検討し計画的な広報活動を行う。 ○ホームページに最新の情報を掲載する。	○林野高校で学びたいという小中学生が増え、定員を充足することができる。	A	○4月中旬にホームページのリニューアルが完了した。 ○6月上旬には学校案内を完成することができ、第1回オープンスクール案内ちらし、ニュースレター（4・5月号）とともに6月中旬には中学校に配付した。 ○8月下旬には、第2回オープンスクールちらし・ポスター、ニュースレター（6・7月号）、英語科ニュースレターを中学校に配付した。 ○みまチャンネルのデータ放送にも本校のお知らせ（行事予定2ヶ月分）の掲載を始めた。 ○オープンスクールの参加生徒数が45名、参加保護者数が46名増加した。 ○ニュースレター（8・9・10月号）、ちらし（スクールポリシーと多様な選択科目）を中学生（全学年）に配付した。	B	○合格速報と3年生満足度調査をまとめたチラシを中学生（全学年）に配付した。 ○ニュースレター第4号（11・12月号）を中学生（全学年）に配付した。 ○12月1日での進路希望状況は97名（0.81倍）で、昨年度の87名（0.73倍）から増加した。しかし、定員を満たすまでは届かなかった。 ○大原中学校と作東中学校での学習ボランティアに生徒25名が参加した。中学生に林野高校を身近に感じてもらうことができ、教育関係の進路を希望する高校生にとっても良い機会となっている。	○学校案内の早期完成を目指す。 ○中学校を訪問しての学校説明会が特定の期間に集中するため、訪問する教員のやり繰りが大変である。1年間を見通して担当者や広報活動内容を検討する必要がある。
	進路指導課	○詳細な進路情報・進路実績を広報する必要がある。	○教務課と連携し、ニュースレター・ダイレクトメール・HP等に進路実績・進路行事を掲載する。	○ニュースレターに3回・ダイレクトメールに3回（年5回発行）詳細な進路実績・進路情報を掲載する。	B	○進路実績が確定次第教務課と連携し情報を発信する予定である。	B	○12月中旬に総合型選抜・学校推薦型選抜の速報を発行していただいた。	○今後も継続していく。
5 組織的で効率的な学校経営や個人の意識改革を進め、負担軽減を図る。	運営委員会	○時間的には限られているため、事前の分掌間での連携が必要である。	○毎週実施される連絡会により、短いサイクルで密な検討を行い、学校運営において早い対応を行う。	○毎週1回（月4回）の実施。	B	○予定通り実施できている。今後も、効率の良い運営を目指していきたい。	B	○月曜が休日の時以外は、ほぼ毎週開催し、短いサイクルで適宜検討することができた。	○効率の良い運営を進める。
	教務課	○各担当業務の必要性・効率・成果の検討。	○業務内容の精選。 ○必要な資料の検索時間が短縮されるよう、校務フォルダやGoogleドライブを整理する。 ○校務サーバーを更新する。	○分掌の業務を精査し、外部発注も含めて業務の無理や無駄を減少させる。	B	○校務サーバーが老朽化のため不調であったが、10月に機器の更新を行い、熱問題に対して設置場所の工夫を行うことで安定した運用が出来るようになった。 ○ホームページの更新作業については、ブログ等の軽微な更新は教員で行い、手間の掛かる更新は業者に依頼することができるようになった。	B	○校務サーバーの更新を機に、職員室の貸し出し用Chromebookの保管庫やその周辺のPCやプリンターの配置を変更し、無駄なスペースの削減を行うことで教務課ロッカー内の整理を行い、必要物品が使用しやすくなった。 ○職員室にChromebookに対応したレーザープリンターを設置し、Chromebookから直接印刷が行えるようになった。 ○デジタル採点システム（百問線乱）を試験導入し、採点業務の負担軽減につながった。	○分掌業務の業務の効率化を進めていく。
	生徒課	○研修や会議等で教員が忙しく、生徒に関わる時間が少なくなっている。そのため、部顧問が放課後活動に出る時間が取れず、生徒主体の活動のフォローができていない。	○毎週金曜日は「部活動の日」と設定させてもらい、緊急時や教育相談以外の会議や研修を設定しないよう朝礼、職員会議等で教員全体に周知してもらう。	○今年度、毎週金曜日に緊急時や教育相談以外の会議や研修が一度も設定されない。	B	○緊急事態宣言の影響で部活動ができていない部もあるが、各課・科の協力もあり、金曜日には会議等は設定されていない。その中で、野球部は1年生大会で県ベスト16、女子バレーボール部も春高岡山県予選大会で県ベスト16という好成績を残している。	B	○日常的に放課後も面談や質問への対応などで生徒と関わったり、翌日の授業のために教材研究に取り組まれている先生方が多いが、金曜日は部活動を頑張っている生徒の様子を見たり、指導したりしていただくように金曜日は「部活動の日」とお願いした。多くの先生方の協力もあり、緊急時や教育相談以外の会議や研修はあまりなかった。コロナ禍での活動により制限された場面もあったが、野球部やサッカー部、バレーボール部女子などが試合で好成績を残し、書道部は地域のイベントでパフォーマンスを披露するなど様々な場面で活躍する部活動生の姿を見ることができた。	○教員数が減少していく中だが、第一顧問や第二顧問の先生方に負担が多くなるように、強化指定部や活動が活発な部は3人体制、それ以外の部についても2人体制で顧問を編成する。また、顧問の掛け持ちを極力なくすために、部活動の精選を検討する。
	進路指導課	○進路行事の精選・再考を図る。 ○ICT機器を活用した業務の効率化を図る。	○家庭学習実態調査・進路希望調査等で必要に応じICT機器を利用する。	○各行事の教員負担の軽減化。	B	○フォームを利用した学習実態調査のとりまとめについては検討しているが、紙ベースの調査の良さもあり、現在検討中である。	B	○各種調査をフォームを利用して行っている。学習実態調査については生活習慣の確認などのため紙ベースも使用していきたい。	○クロムブックと紙の特性を理解した上で、使い分けをする必要がある。
	3年次	○年次団会議等の放課後予定を削減し、残業時間を減らす。	○OST、LHR・MDPをそれぞれ探究の時間に充てる。	○放課後の会議の削減（前年度7回を5回に減らす）	B	○現段階で定期的な会議は年度当初の2回だけである。進路検討会等ですり合わせを行っている。	A	○学年会議は年間3回のみであった。LHRやSTの時間を活用し、面談や探究を実施することができた。また、朝礼の時間や回覧形式により意見を集約することができた。	○日常の連絡等は確認できていたので受験の手続きや学校の方針を会議を実施し確認する。 ○進路上の手続きの形式や方法を摺り合わせていく必要が不十分だったと思うので、次年度に向けて手順等を十分に確認しながら行っていきたい。
	2年次	○ICT機器の活用による業務の効率化。 ○年次団行事や年次団指導の見直し。	○Google WorkspaceやClassiの活用法の開発と共有。 ○1年次団・3年次団との情報共有による内容の検討。	○年次団全員が共有し、活用できる。 ○年次団行事や年次団指導が年間を通して無理なく計画できている。	B	○クラスや学年団の運営にICT機器が効果的に利用できている。 ○対外的な活動は計画通りに進められないことが多いが、生徒にとって有益なものとなるよう可能な限り行いたい。 ○数的に限られた年次団内で業務遂行に無理が生じない分担・協力体制が必須である。	B	○Chromebookを生徒の活動記録や情報の収集・管理に利用できている。 ○年次団内の各課員によって業務が協力・分担され、年次団の共通認識のもとで進められている。	○Google WorkspaceやChromebookで利用可能なアプリの研究・検討。 ○年次団に有益な情報や財産の共有による効率化。
	1年次	○放課後会議の削減。 ○ICT機器の活用による業務の効率化。	○教員間の普段のやり取りや年次団回覧・連絡ボードによる情報共有。 ○Chromebook(Google Workspace)による調査回収・記録集計。	○放課後会議は原則行わない。 ○全員が使え、共有できる。	B	○教員間での連携・情報共有は連絡ボードにより日常的に行えていて、放課後会議は削減できている。今後はChromebook(Google Workspace)も積極的に活用していきたい。	B	○年次団での連携・情報共有は継続的に行うことができ、放課後会議の削減ができた。 ○Google Workspaceの活用について教員間で情報共有を図り、効果的な活用方法を共有することができた。	○学年での行事にGoogle Workspaceを活用しより効率的で効果的な行事を計画する。 ○各分掌で教員間の情報共有を密に行い業務の分担を図る。

* 評価は... A:達成 B:ほぼ達成 C:達成がまだ不十分